

建テ在ル建物ノ(賣渡讓渡)證文ニハ其地主ニ請ヒ地主ヨリ貸主タルヲ
ヲ証スルノ與書ヲ受ケタル上ニテ戸長ノ與書割印ヲ受クヘシ
(明治十年第三十八號布告但書追加)

但官有ノ借地ニ建テ在ルキハ其所屬管廳ニ請ヒテ其貸地タルヲ証ス
ルノ與書ヲ受クヘシ

第二條 建物ノ買受ケ又ハ讓受ケヲ爲サント欲スル者ハ自身又ハ其代人
建物ノ在ル地ノ戸長役場ニ至リ建物書入質記載帳ヲ見合シタル上其
(賣渡讓渡)ノ證文ヲ受取リ然シテ後ニ戸長役場ニ至リ戸長又ハ副戸長

ノ面前ニテ何大區何小區何番地ノ何番ノ建物ヲ何某ヨリ(買受讓受)ク
ル旨ヲ書入質記載帳ニ記入シ年月日並ニ苗字名ヲ記シ實印ヲ押スヘシ
(第四號書式見合スヘシ) (明治十年第六十號布告ヲ以テ本條中實印ヲ押
字ヲ削除スヘシ) (スヘシ)ノ下若シ此手續ヲ爲サ、ル云々ノ六十
セラル

第三條 戸長役場ニ於テ建物(買讓渡)證文ノ與書割印ヲ願出ルキハ是
亦建物書入質記載帳ニ記入スルヲ及ヒ證文ニ與書シ圖面ニ割印スルヲ
建物書入質規則第五條ニ準シ公證ヲ與ルノ手續キヲナスヘシ

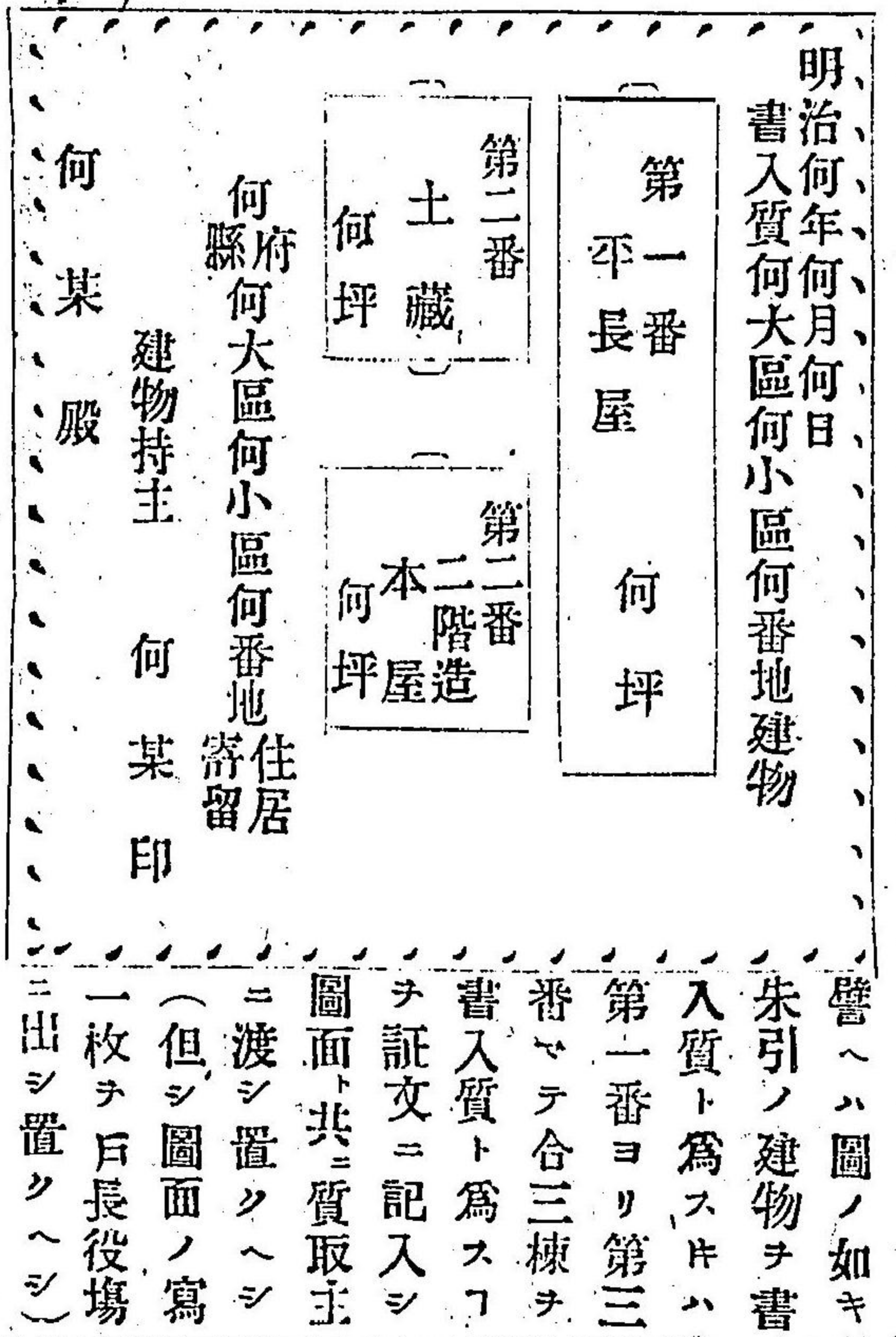
第四條 書入質ト成リタル建物ヲ(買受讓受)タル者ハ其建物ノ書入質ト
爲リタル金數ノ償却ヲ引受クヘシ但シ(買受讓受)人ニ於テ其建物所有

ノ權ヲ拋棄スルトキハ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受クルニ及ハス

第五條 第四條ノ場合ニ於テ戸主ノ後ヲ受ケタル相續人ハ前戸主ヨリ讓
受ケタル建物所有ノ權ヲ拋棄スト雖モ書入質ノ金數ノ償却ヲ引受クヘ
シ (括弧内朱書)

第一號 書式(美濃紙大半紙又ハ右寸法ニ同シキ紙ヲ用ユヘシ)

建物ノ圖ヲ
引クニハ紙
ノ上下左右
トモ點線ノ
外一寸ヲ明
ク置クヘシ



○第二類○民法編○建物書入質入及買讓渡規則

第二號

書式

若シ一枚ノ紙ニテ狹キハ何枚ヲ繼
キ合セ繼目ノ裏ニ繼目印ヲ押スヘシ

明治何年何月何日書入質

何大區何小區何番地建物

第一番

平長屋

何坪

第二番

土藏

第三番

二階
本屋

何坪

書入質之外也

府何大區何小區何番地住居
何縣何大區何小區何番地寄留

何某股

何某印

譬ヘハ圖ノ如ク
朱引ノ建物ノミ
ニテ第一番第二
番合二棟ヲ書入
質ト爲スハ其
旨ヲ證文ニ記入
シ他ノ建物ハ墨
引ニテ書入質ノ
外也ト記シ圖面
ト共ニ質取主ニ
渡スヘシ(但シ
圖面ノ寫一枚ヲ
戶長役場ニ出シ
置クヘシ)

第三號

書式

建物書入質記帳ニ燒失
流亡等ノヲ書込ムノ法

(何号)

何年何月何日

何大區何小區何番地何番ノ建

物ヲ何某ヨリ何某ニ書入質ト

爲タリ

(何年何月何日 燒失
流失)

(戶長何某印)

(何号)

何年何月何日

.....

○第六款 戸長地所建物質入 明治十一年十二月内 書入ノ節公證法 務省乙第八十三号達

地所建物船舶等書入質入及ヒ賣買スルニハ町村戸長ノ公証ヲ要スル成規
ノ處町村戸長ニシテ自分所有ノ地所建物船舶等質入書入及ヒ賣買セント
スルキハ戸長次席ノ役ヲ勤ムル者用掛筆生ニ取扱ハセ公證ノ割印ハ戸長
役場ノ印ヲ用ヒ其由ヲ割印帳ニ登記シ置ク可シ此旨相達候事

○第七款 公證ノ猶豫 明治十五年十二月 第六十号布告

戸長ニ於テ地所建物船舶賣買讓渡及質入書入ノ公證ヲ爲スヘキ際該物件
又ハ所有主ノ身分ニ關シ既ニ訴訟ヲ起シ公證猶豫ノ儀申立ル者アル時ハ
其裁判ヲ執行シ得ヘキ迄公證ヲ爲ス可カラズ
右奉 勅旨布告候事

▲明治十七年三月第五号布達
明治十五年(十二月)第六十号布告ハ勸解又ハ刑事告訴中ナルヲ以テ公
證猶豫申立ツル者アル場合ニモ適用スヘキモノトス
右布達候事

○第八款 動産不動産書入 明治六年八月第 三百六号布告

一 動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シ右期限中書入ノ動産不動産流亡
又ハ燒失ヲ爲ストモ負債ハ身代限濟方可申付事
一 動産不動産ヲ書入ニ爲シ金穀貸借シ濟方ノ期ニ臨ミ右書入ノ動産不動
産ノ相場高下アリテ賣買ノ價ヒ負債ノ高ヨリ餘分アル時ハ其餘分ハ借
主ヘ與フヘシ若シ其價ヒ負債ヨリ不足ナレハ身代限濟方可申付事
一 壬申第三百号布告以前家祿ヲ書入ニ爲シ金穀貸借致シタル分ハ家祿ヲ
除キ外物品ヲ以テ身代限濟方可申付事

○第九款 金穀貸借請人 明治八年六月 第二百号布告

第一條 金銀借用返濟相滞リ本文身代限濟方申付候上不足相立候節ハ其
不足ノ分 請人ヘ濟方申渡シ猶不相濟ニ於テハ其 請人ヲモ身代限申付其
上不足相立候ハ、借主并ニ 請人ハ勿論其相續人ニ至ル迄身代持直シ次
第皆濟可致事

第二條 借主逃亡又ハ死去跡相續人無之時ハ其 請人ヘ濟方申渡シ候上不
相濟ニ於テハ身代限申付猶不足相立候ハ、 請人ハ勿論其相續人ニ至ル

○第一類○民法編○金穀貸借請人訴人辨償規則 上七百三十三

マテ身代持直シ次第皆濟可致事

第三條 身代限申付候上不足相立身代持直シ次第皆濟可致旨左ノ離形之
通裁判所ニ於テ其ノ原證文ノ裏ニ記シ押印ノ上貸主ニ可相渡置事

裏書雛形

第一條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓相滯ルニ付借主何ノ誰身代限申付ル處不足相立
請人何ノ誰ヲモ身代限ヲ以テ辨償爲致都合金何百何拾圓ニ相成ニ付右
請取殘リ何百何拾圓ハ借主何ノ誰請人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ル迄身
代限持直シ次第皆濟可致モノ也
年月日
某裁判所印

第二條ノ節書式

表書ノ元利金何百何拾圓借主何ノ誰^{失踪}死跡相續人無之ニ付請人何ノ誰
ハ身代限ヲ以テ辨償申付ル處金何百何拾圓ニ相成ニ付右請取殘リ何百
何十圓ハ請人何ノ誰ハ勿論其相續人ニ至ルマテ身代持直次第皆濟可致
モノ也
年月日
某裁判所印

○第十款 無期限貸付金穀返辨方

明治六年一月第十号布告

金穀貸付証文ノ内返濟期限無之歟又ハ出來次第返却可致等ノ證書取置後
日訴出ルニ於テハ裁判申渡ヨリ十二ヶ月ノ内濟方可申付事
但從前今後共無年期貸付中内証屢々返濟ヲ促スト雖モ滿五年ニ至ル迄
一度モ不訴出者ハ裁判ニ不及候尤土地家屋等ノ貸賃ハ不動産ニ屬スル
議ニ付滿五年ヲ過ルト雖モ可及裁判事

○第十一款 連借金穀償却方

明治八年四月第六十三号布告

金穀其他借用證書中借主數名連印ニテ各自分借ノ員數ヲ記載セサル分ハ
右連印中失踪又ハ死亡シテ相續人ナキモノ等有之トモ其借用シタル金銀
其他ノ總額ヲ其連印中現在ノ者ニ償却可申付候條此旨布告候事
但右證書中分借ノ員數無之トモ別ニ分借ノ明證アルハ此限ニアラス

○第十二款 外國人ニ家屋

外國人ニ家屋 明治七年八月第八十五號布告

外國人ニ家屋地所等貸渡シノ節約東上輕忽疎漏ヨリ竟ニ内外人民ノ間不
都合ヲ生シ候テハ自然交際ニモ差響候條自今學校其他ノタメ雇入レ居留

○第二類○民法編○外國人ニ家屋地所等貸渡方

地外へ住居スヘキ外國人及ヒ公使館附屬書記官等へ貸家貸地ノ節ハ先ッ
約定草案相添へ其管轄廳へ伺出許可ノ上結約可致此旨布告候事
但建物取毀賣捌ノ分ハ幾日以内取拂ノ約定取結可賣渡尤賣渡ノ上ハ其
旨管轄廳へ可届出事

○第十三款 利息制限法

明治十年九月第
六十六号布告

- 第一條 凡ソ金銀貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス
- 第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニ
シテ元金百圓以下ハ一ケ年ニ付百分ノ二十(二割)百圓以上千圓以下百
分ノ十五(壹割五分)千圓以上百分ノ十二(一割二分)以下トス若シ此制限
ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サシムヘシ
- 第三條 法律上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ利息ノ高チ定メサル片
裁判所ヨリ言渡ス所ノ者ニシテ元金ノ多少ニ拘ハラヌ百分ノ六(六分)
トス
- 第四條 第二條ニ依リ定期利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金棒利
等ノ名目ヲ用ル者アル片總テ裁判上無効ノ者トス
- 第五條 返還期限ヲ違フル片ハ負債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ償金罰金違

約金科料等ヲ差出スヘキヲ約定スルコトアル片概シテ損害ノ補償ト看
做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量
スル片ハ之ニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得

▲明治十三年七月司法省丁第十三號達

利息制限外ノ質入證書ニ戸長公証ノ件ニ付別紙ノ通法制部ヨリ通達有之
候條爲心得此段相達候事

別紙

法制部ヨリ通達(明治十二年六月廿二日)

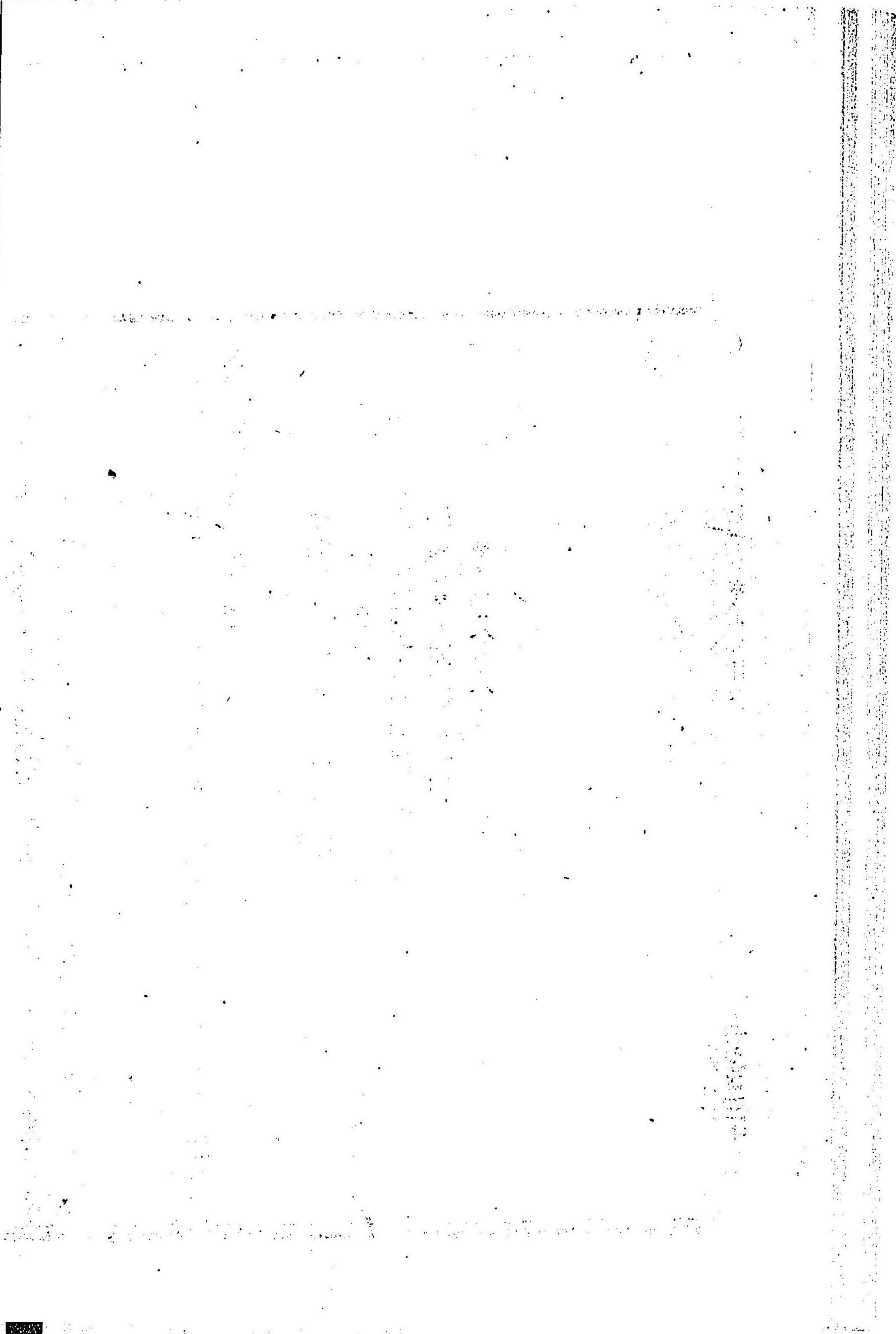
利息制限外ノ質入證書ニ戸長公証ノ件ニ付舊法制局ヨリ及説明置候處今
般閣裁ヲ以テ左ノ通熊本縣ニ回答候條爲心得此段及通達候也

法制部ヨリ熊本縣へ回答

戸長ニ地所家屋等ノ書入質入ヲ公証スルノミニシテ利息ノ制限ニ超ユル
ト否トニ關セサルモノトス

現行 日本法律規則大全 上卷終

○第二類○民法編○利息制限法



禁電子式複写

030968-001-5

CZ-3-08

現行類聚日本法律規則大全

高木 周次/編

M17-24

BBC-0343



